



令和7年3月2日(日)
13:00～16:00
開場12:20～・手話通訳あり

講演プログラム

■ 基調講演：13:05～

立川のまちづくりへのアプローチ

沖川 伸夫 (中央大学法学部兼任講師／現代部会会長)

■ 第1部：13:20～

大立川の建設から業務核都市へ
—多摩の中心都市を目指して 1955～1995—

松本 洋幸 (大正大学文学部教授／現代部会編集委員)

■ 第2部：14:40～

立川市の団地開発と地域社会

金子 淳 (桜美林大学リベラルアーツ学群教授／現代部会副会長)



立川の まちづくり をふりかえる



会場 たましんRISURUホール 小ホール

参加費無料・事前申込不要・定員246名

MAP



立川市錦町3-3-20

JR立川駅より徒歩13分

JR西国立駅より徒歩7分

※施設の専用駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。

主催・お問い合わせ

立川市産業文化スポーツ部市史編さん室

電話：042-523-2111(内線4044)

メール：chiikibunka-t@city.tachikawa.lg.jp

現在の立川市は、交通の結末点である立川駅を中心とした「商都」として知られ、緑ゆたかな市域には18万の市民が暮らしています。今年度の講演会では、今春刊行の『新編立川市史 資料編 現代2』の成果を中心に、現在にいたるまちづくりのあゆみをふりかえります。

基調講演 13:05～ 立川のまちづくりへのアプローチ



講師・沖川 伸夫 中央大学法学部兼任講師／現代部会部会長

米軍立川基地の返還後、立川市は多摩の中核都市として飛躍的に発展しました。しかし、私たちがいま目にする立川の景観は、一朝一夕に形づくられたわけではなく、単に政府や都の主導でつくられたともいえません。それでは、立川のまちづくりの変遷をどう捉えたらいいのでしょうか？今回の市史講演会のねらいを提起します。

第1部 13:20～ 大立川の建設から業務核都市へー多摩の中心都市を目指して1955～1995ー



講師・松本 洋幸 大正大学文学部教授／現代部会編集委員

昭和30年代、日本は高度経済成長の時代を迎えます。昭和38（1963）年に砂川町と合併した立川市は、以後多摩の中心都市を目指して、基地跡地の返還を求めつつ、都市インフラの整備を進めていきます。こうした立川市の動きは、政府の首都圏基本計画や、東京都の多摩副都心開発政策とも連動したものでした。本講座では、大立川建設から業務核都市へと至るまちづくりの半世紀を、広域的な視野からたどります。

第2部 14:40～ 立川市の団地開発と地域社会



講師・金子 淳 桜美林大学リベラルアーツ学群教授／現代部会副部会長

終戦後の都心部の住宅不足を解消するため、昭和30年代以降、郊外への団地開発が進んでいきました。立川市でも、日本住宅公団のけやき台団地（1966年入居開始、1250戸）や、東京都住宅供給公社の立川富士見町住宅（1968年入居開始、750戸）といった大規模団地の建設が相次ぎ、人口が急増しました。立川市においてどのような経緯で団地開発が進み、それに合わせて地域社会がどのように変化していったのかを考えます。

写真展のご案内

市史編さん関連展示『写真展 昭和から令和へ…まちの鼓動と変貌』を下記のスケジュールで開催中です。講演会とあわせてぜひご覧ください(第1期と第2期の展示内容は同一です)。

- 第1期 令和7年2月22日（土）8：30～令和7年2月28日（金）13：00
会 場 立川市役所1F多目的プラザ（開場時間9：00～17：00）
- 第2期 令和7年3月1日（土）9：00～令和7年3月8日（土）20：00
令和7年3月10日（月）11：00～令和7年3月14日（金）13：00
※令和7年3月9日（月）の展示はお休みです。
- 会 場 たましんRISURUホール3Fギャラリー（開場時間9：00～21：30）



QRコードから立川市史のページへ移動できます